

平成30年6月

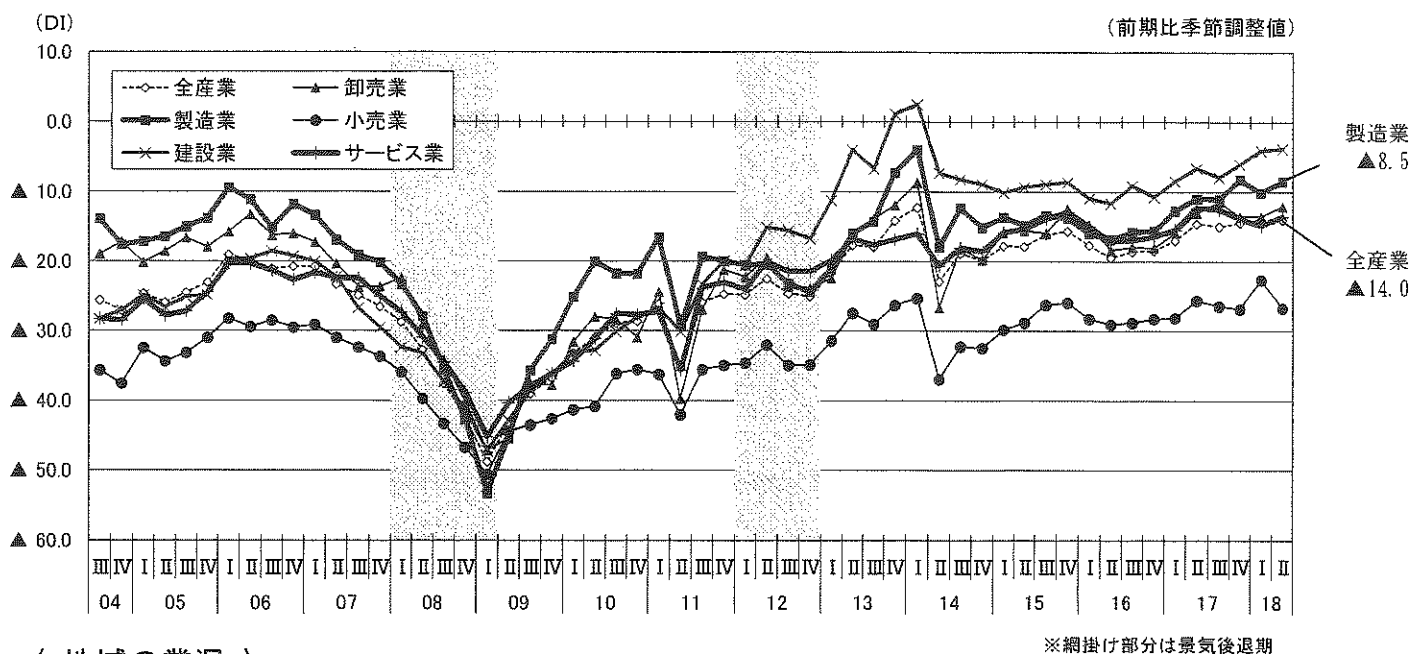
第152回 中小企業景況調査報告書 (2018年4-6月期) (製造業編)

※DIとは…
「好転」と回答した企業の割合－「悪化」と回答した企業の割合。DI値がマイナスの場合は、悪化したと回答した企業の数が多いことを示す。

中小企業基盤整備機構 企画部 調査課
〒105-8453 東京都港区虎ノ門3-5-1
TEL:03-5470-1521(ダイヤルイン)
URL:http://www.smri.go.jp/research_case/research/survey/index.html

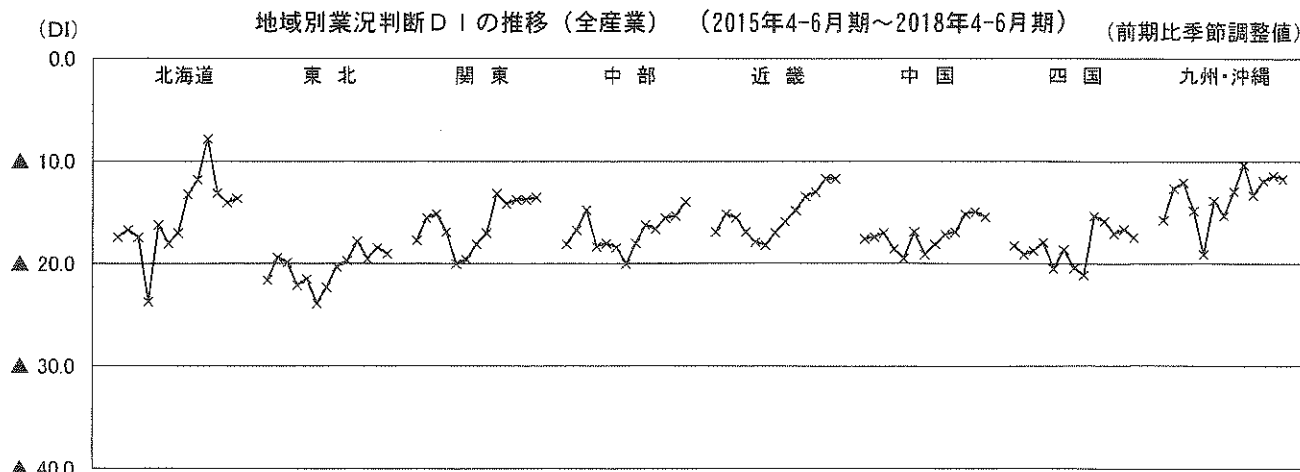
中小企業の業況は、一部業種に一服感が見られるものの、基調としては、緩やかに改善している。
前期と比べた全産業の業況判断DIは、3期ぶりに低下した。(▲13.9→▲14.0)

中小企業の業況判断DIの推移(産業別)



〈地域の業況〉

中部など3地域でマイナス幅が縮小し、近畿で横ばい、四国など4地域でマイナス幅が拡大した。

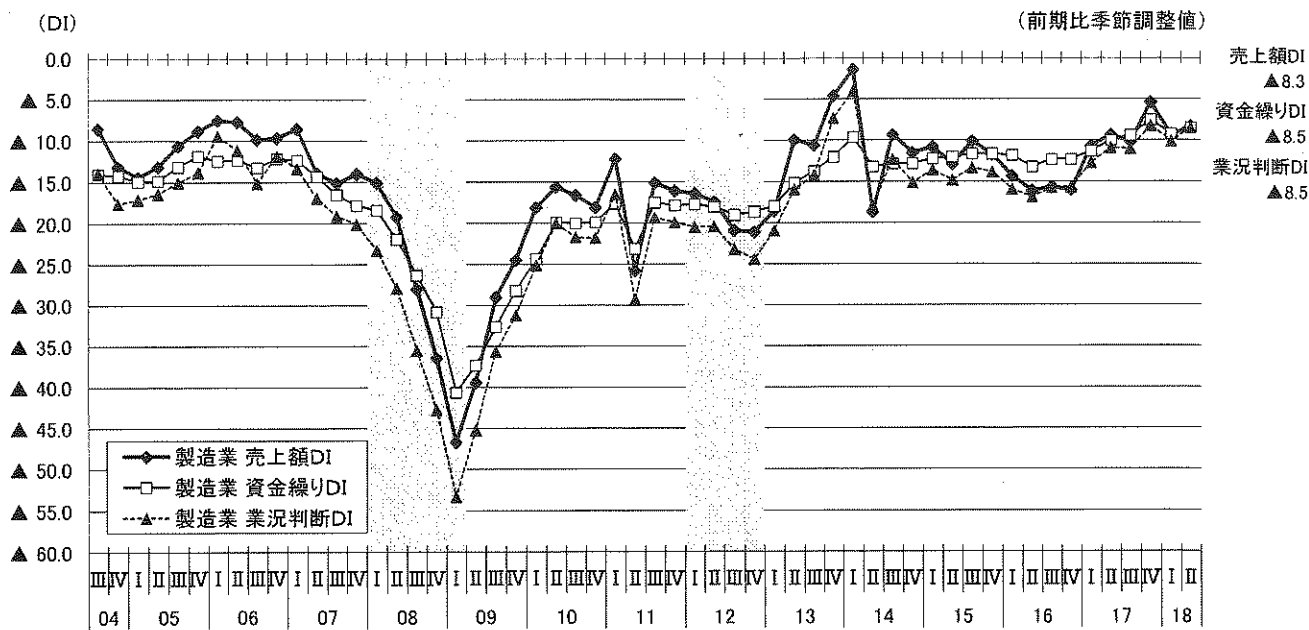


(注) 1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。
2. 関東には新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には石川、富山の各県、近畿には福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄県の合計。
3. 業況判断DI=前期に比べて「好転した」企業の割合－前期に比べて「悪化した」企業の割合

1. 製造業の動向

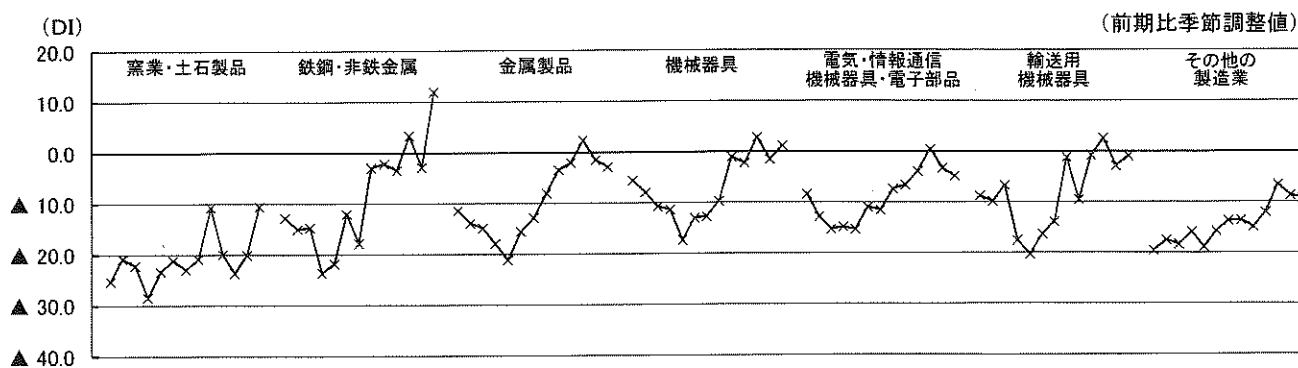
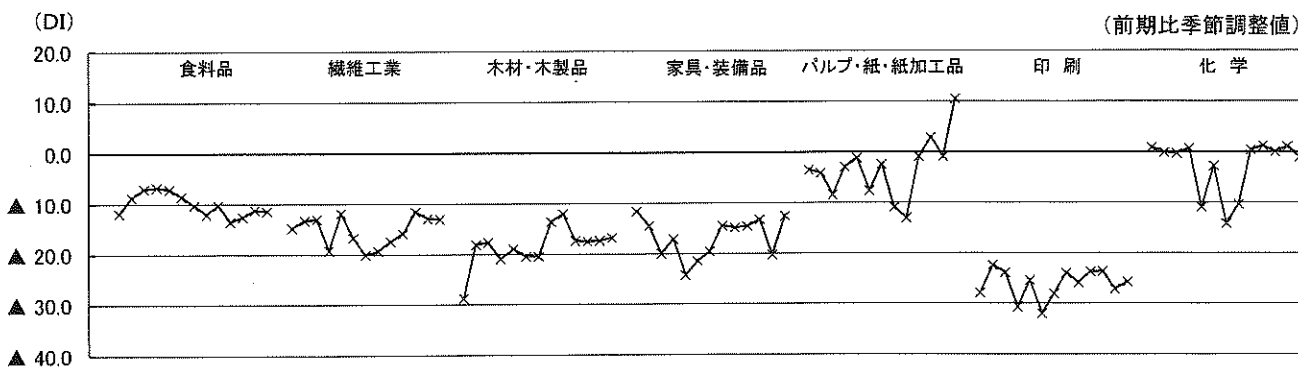
製造業の業況判断DIは、▲8.5（前期差1.6ポイント増）とマイナス幅が縮小した。また、売上額DIは、▲8.3（前期差1.1ポイント増）、資金繰りDIは、▲8.5（前期差0.7ポイント増）といずれもマイナス幅が縮小した。

製造業の14業種の内訳では、鉄鋼・非鉄金属で12.0（前期差14.8ポイント増）など3業種でマイナスからプラスに転じ、窯業・土石製品で▲10.5（前期差9.5ポイント増）、家具・装備品で▲12.5（前期差7.7ポイント増）など5業種でマイナス幅が縮小し、化学で▲1.0（前期差2.1ポイント減）とプラスからマイナスに転じ、電気・情報通信機械器具・電子部品で▲4.8（前期差1.6ポイント減）など5業種でマイナス幅が拡大した。



※網掛け部分は景気後退期

製造業 業種別 業況判断DI (2015年4-6期～2018年4-6月期)



2. 設備投資動向

設備投資を実施した企業の割合は、製造業全体で21.1%（前期差0.4ポイント増）と増加した。

（単位：％）

	食料品	繊維工業	木材・木製品	家具・装備品	パルプ・紙・紙加工品	印刷	化学	窯業・土石製品	鉄鋼・非鉄金属	金属製品	機械器具	電気・情報通信・電子部品	輸送用機械器具	その他の製造業	製造業計
30年4-6月期	19.2	16.0	12.3	13.6	20.5	21.3	30.9	22.6	30.9	24.3	25.1	24.6	27.7	17.5	21.1
30年1-3月期	20.5	14.5	9.9	14.7	16.7	16.0	20.9	19.2	33.6	26.3	24.5	26.3	35.0	16.0	20.7
29年10-12月期	25.4	18.6	12.9	14.0	23.6	20.2	27.5	22.2	30.3	29.8	27.9	27.6	38.2	17.4	23.9
29年7-9月期	25.7	16.4	16.1	12.8	20.5	20.3	28.4	19.3	29.2	27.4	27.2	23.1	41.1	19.7	23.4
29年4-6月期	20.9	15.7	11.7	10.4	23.3	15.8	33.8	20.5	31.4	27.6	22.3	21.1	34.3	16.8	20.7

3. 製造業の経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点としては、前回同様「需要の停滞」が1位にあげられており、前回3位の「原材料価格の上昇」が2位に、前回2位の「従業員の確保難」が3位となった。

（1位にあげた企業の割合）

	1位	2位	3位	4位	5位
今期 (4-6月期)	需要の停滞 (19.3%)	原材料価格の上昇 (14.7%)	従業員の確保難 (13.6%)	生産設備の不足・老朽化 (12.3%)	製品ニーズの変化への対応 (10.6%)
前期 (1-3月期)	需要の停滞 (19.8%)	従業員の確保難 (13.8%)	原材料価格の上昇 (12.9%)	生産設備の不足・老朽化 (12.1%)	製品ニーズの変化への対応 (10.7%)

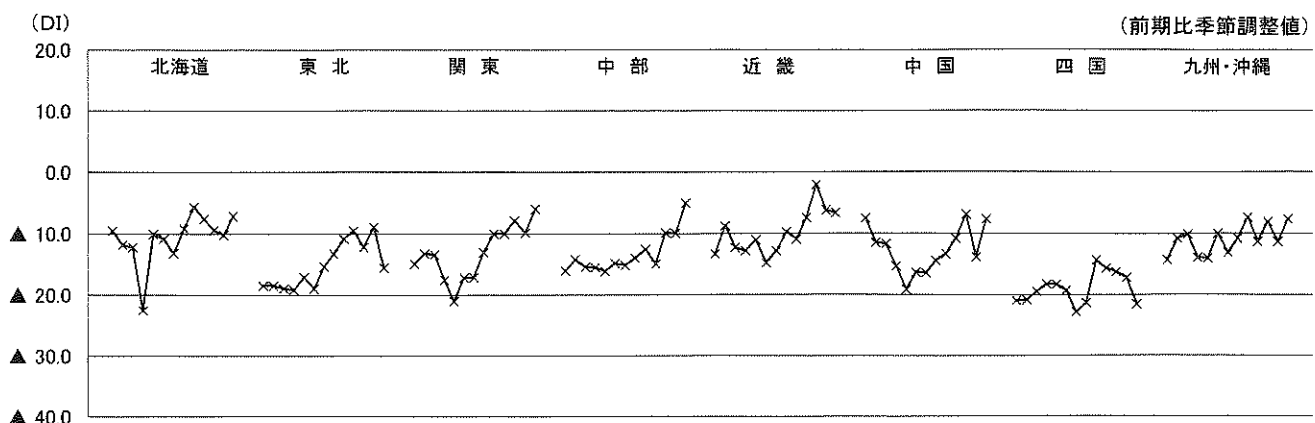
4. 製造業の地域別業況判断DI

地域別に見ると、中国、中部、関東、九州・沖縄、北海道の5地域でマイナス幅が縮小し、東北、四国、近畿の3地域でマイナス幅が拡大した。

中小企業の地域別業況判断DIの推移

製造業

(2015年4-6月期～2018年4-6月期の動き)



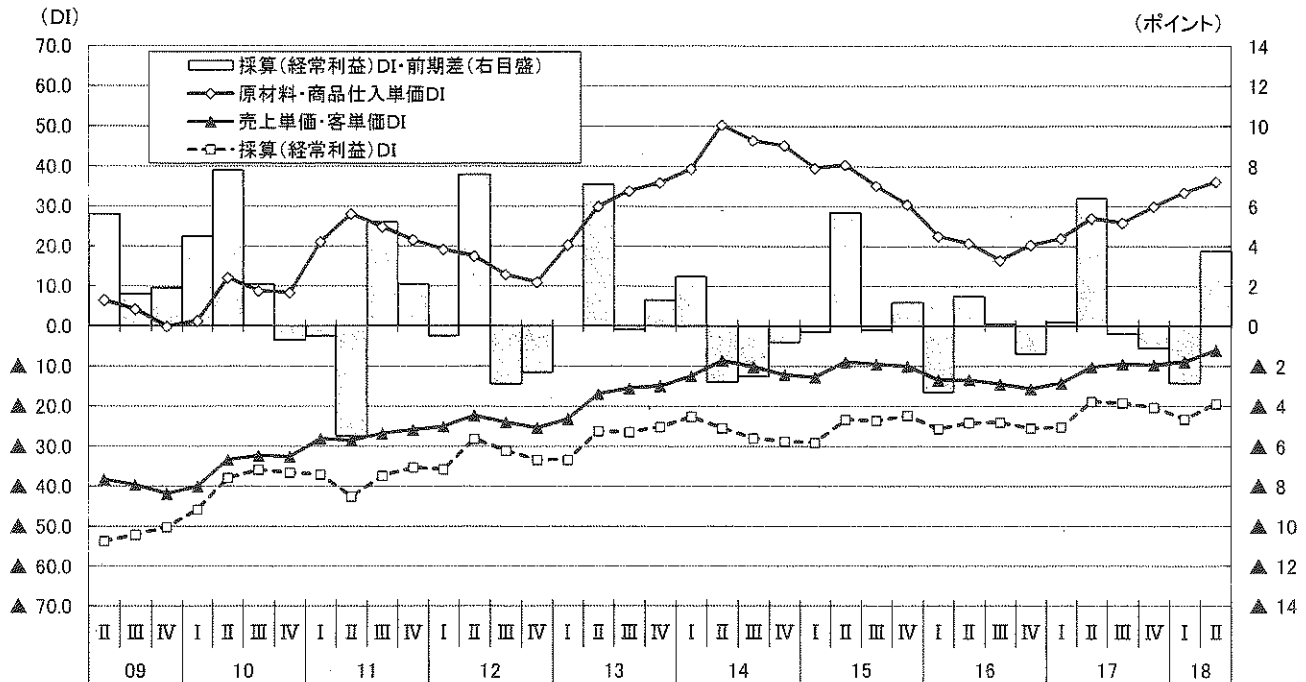
- (注) 1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。
 2. 関東には新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には石川、富山の各県、近畿には福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄県の合計。
 3. 業況判断DI=前期に比べて「好転した」企業の割合-前期に比べて「悪化した」企業の割合

〈トピックス〉 原材料・商品仕入単価、売上単価と採算（経常利益）の各DIの動きについて

今期の原材料・商品仕入単価DI（「上昇」－「低下」、前年同期比）は、（前期33.5→）36.2（前期差2.7ポイント増）と3期連続してプラス幅が拡大した。

一方で、売上単価・客単価DI（同）も、（前期▲8.9→）▲6.0（前期差2.9ポイント増）と2期連続してマイナス幅が縮小し、採算（経常利益）DI（「好転」－「悪化」、前年同期比）は、（前期▲23.6→）▲19.4（前期差4.2ポイント増）と4期ぶりにマイナス幅が縮小した。

原材料・商品仕入単価DI、売上単価・客単価DI及び採算（経常利益）DI（前年同期比）



【調査対象企業のコメント】

- ・ 業況的には好転していますが、原材料価格の上昇及び原材料の不足、運搬車輛の運転手不足などで運搬費の高騰が予想されます。〔窯業・土石業 北海道〕
- ・ 仕入価格の上昇を販売価格に反映させるまで時間がかかる。利益がとりづらい状況であるとともに価格の高騰が販売数量に影響している。〔小売業 秋田〕
- ・ スマホの需要落ちこみと、半導体製造装置の在庫調整等で、半導体関連の景況感は相当落ちこんでいます。しかし今回はそんなに長くは続かず、おそらく秋まで少し充電期間かなと感じております。〔電気・情報通信機械器具・電子部品 山梨〕
- ・ 毎年、仕入単価の上昇が少しずつあり、メニュー単価を上げることも容易ではないので、悩みの種。来年は消費税も上がる為、新規レジの導入も検討しており、ポイントなどを付ける付加価値で消費者のニーズに応えたい。〔飲食業 石川〕
- ・ 円安傾向、輸送費上昇による仕入単価の上昇が続く見通し。また、従業員が高齢化しているが、次世代の人材確保も引き続き厳しい見通しです。〔卸売業 兵庫〕
- ・ 引合いも多く、新しい分野への開拓も積極的に行っているため、すぐにも雇用をしたいがなかなか集まらず、外注に頼っている状況である。〔建設業 高知〕
- ・ インバウンド客の増加により業況は好転しているが、国内の旅行客は減少傾向にあり安心はできない。今後の人口減少等の問題も見据えてコンパクトで利益率の高い事業規模に変化していきたい。〔宿泊業 佐賀〕
- ・ ガソリン・ドライクリーン溶剤・ポリ包装資材が値上げで、クリーニング代に転嫁できずに、大変困っています。〔対個人サービス業 大分〕

【調査要領】

- (1) 調査時点：2018年6月1日時点
- (2) 調査方法：全国の商工会、商工会議所の経営指導員及び中小企業団体中央会の情報連絡員による聴き取り
- (3) 回収状況：中小企業基本法に定義する全国の中小企業で、調査対象数18,959のうち有効回答数18,362（有効回答率96.9%）（産業別の動向は、製造業の有効回答数4,504を集計したもの。）